



すっきりとしない天気が続きますが、いかがお過ごしでしょうか！

亀のように歩みは遅くとも、『お金力』をしっかり・確実に身に付けていただく【亀さん通信】第 144 号の発信！

脳裏にこだまする銀行員の高笑い

資産運用を考えるにあたって大切なこと。それは「コスト」です。多くの人は運用成果ばかりに気を取られますが、コストをないがしろにすると足元をすくわれます。ところで、投資信託の世界では、昨今**低コスト競争**が白熱。私たちにとって、手数料が下がるのは何ともありがたいかぎりですが、今回はその詳細を見ていきましょう！

まずは投資信託の主要なコストの確認から。

■**購入時手数料（販売手数料）** 投資信託を購入する時に支払う費用。同費用がかからない投資信託をノーロードファンドと呼ぶ。

■**運用管理費用（信託報酬）** 投資信託を保有している間、運用資産の中から毎日差し引かれる費用。

8月に十六銀行で最も売れたファンドは「フィデリティ・USリート・ファンドB」です。同ファンドの**販売手数料は2.7%**（店頭購入）、**信託報酬は1.512%**。100万円分購入すれば、販売手数料として27,000円。仮にファンドの価格が100万円のままで1年間推移すれば、信託報酬は累計15,120円になります。いかかでしょう。高いと思われませんか、安いと思われませんか？

冒頭で言及した低コスト競争が行われているのは、「**インデックスファンド**」と呼ばれる投資信託です。インデックスファンドとは、**あらかじめ決められた指標（インデックス）と同じ値動きを目指す投資信託（ファンド）**のこと。例えば、インデックスがテレビなどでよく耳にする日経平均株価であれば、同株価が上がればファンドの価格も上がり、下がれば同じように下がるというわけです。ちなみに、インデックスを上回る運用を目指す投資信託は、「**アクティブファンド**」と呼ばれます。当然のことながら、欲張った運用をするわけですから、**コストが高い**のは自明の理。それにインデックスを上回る**成果が保証されていない**ことはいまでもありません。それでは、インデックスファンドの信託報酬を具体的にどうぞ。

投資対象	インデックス	SMT	eMAXIS	ニッセイインデックス	iFREE
国内株式	TOPIX	0.3996%	0.432%	0.3132%	0.2052%
先進国株式	MSCI コクサイ	0.54%	0.648%	0.2592%	0.2268%
国内債券	NOMURA-BPI 総合	0.3996%	0.432%	0.162%	0.1512%
先進国債券	シティ世界国債	0.54%	0.648%	0.216%	0.1944%

2008年に登場したSMTシリーズ。大半のネット証券会社で購入でき、しかも**ノーロードで信託報酬も格安**。今となっては当たり前ですが、当時としては衝撃的でした。日本のインデックスファンドは高コストと言われてきましたが、その潮目が変わったのはこの年から。eMAXISシリーズ等が新規設定され低コスト競争時代に突入。その後、一時は小康状態を保っていましたが、昨年11月、ニッセイインデックスシリーズの信託報酬引き下げで新たな次元へ。そして今月、iFREEシリーズの登場と相成ったわけです。

■**先進国株式インデックスファンドの信託報酬の推移** STAM : 0.777% ⇒ eMAXIS : 0.648% ⇒ ニッセイ : 0.2592% ⇒ iFREE : 0.2268%
この8年のざっくりとした流れです。ところで、iFREEの運用会社である大和投資信託が1990年代に設定していた国内株式インデックスファンドの信託報酬は、なんと0.9%（税抜）でした。本当に時代は大きく変わったものだとしみじみ思います。

以上、インデックスファンドのコストが大幅に下がってきたわけですが、実際に十六銀行の店頭で売れているのは、相も変わらず**高コストなファンド**ばかり。銀行員の高笑いが聞こえてくるようです。金融機関で勧められた商品を購入することは、正解ではありません。なぜならその商品は**金融機関にとって得なもの（購入者にとって損なもの）がほとんど**ですから。悲しいかなそれが現実です…

抜けるような秋晴れを早く拝みたいものです…

(株)亀山保険事務所 亀山裕弘 (MFLD) 1級ファイナンシャル・プランニング 技能士 0575-28-2768 info@kameyama-hoken.com